

育児休業に関する体験記

30 代 196 日間取得

① 家事 ・ 育児 について	1. 育児休業前に、夫婦で家事・育児の分担をどのように話し合い、行ったか 妻が母乳育児を希望していたことから、授乳以外の家事・育児全般を私が担当することとしました。第二子であるため上の子の保育園送迎も加わり、お互いが家事や育児どちらでも対応できるようにしました。 2. 育児休業後の家事・育児の参画の状況について 平日朝7時前に出勤するため、朝の家事への参加は難しい状況です。一方、夕方は18時前には帰宅し、夕食・入浴・自由時間・就寝と、家族4人全員で過ごすことを意識して行動しています。仕事より家庭を優先させていただいております。日中の育児の負担を考慮して、少しでも妻の自分の時間を作れるように心がけています。 （妻 記載欄）休業取得者の家事・育児の参画の状況について 出産前に切迫早産で2ヶ月入院しましたが、その間も夫が上の子との生活を支えてくれました。その経験のおかげで産後も安心して夫と一緒に子育てを始めることができました。上の子の保育園送迎や買い出し、食事の準備など、家事全般をすべて主体的に担ってくれました。「手伝ってもらっている」というより、「二人で一緒に子育てをしている」という実感がすごくあって、産後の大変な時期も心穏やかに過ごすことができました。家族みんなで過ごしたこの半年間は、私たち夫婦にとって一生忘れられない、大切な宝物になりました。
② 仕事 について	1. 休業取得前、仕事の引継ぎはどのように行ったか 今回は2度目の育児休業取得であったため、前回の経験を活かし引き継ぎは最小限に抑えることができました。 2. 評価・反省 一部に属人化していた業務があり、育児休業の取得により周囲の方が担当せざるを得ない状況が生じました。反省点として、普段からの情報共有と業務の標準化が重要であると改めて認識しました。一方で、育休取得を機に担当業務を事前に共有したことで、部署全体の知識・経験の向上につながったと感じております。

③ 自由 記述 (400 字程 度)	(取得者 記載欄) (例：育児休業取得の経緯、育休を終えての所感、周囲の反応) 今回の育児休業取得にあたっては、里帰り出産を行わないこと、第二子であることの二点が主な背景にありました。第一子の際にも1ヶ月間育休を取得しましたが、産後の母体ケアを十分に行うためには3ヶ月以上の取得が必要であると痛感しており、今回は育児休業給付金が3分の2支給となる6ヶ月間の育休を申請しました。 育休期間中は、新生児の育児のみならず、上の子や妻と充実した時間を過ごすことができました。特に上の子との毎日の保育園送迎は、子供の成長を身近に感じられる、かけがえのない経験となりました。 男性の育児休業取得はまだ社会的に十分浸透していないと感じており、6ヶ月間の取得を伝えると驚かれる場面が多くありました。今後、男性育休の取得がより当たり前のものとなるよう、本体験記が少しでも参考になれば幸いです。
---	---